

教育の課程と方法（教職専門科目）

「教育の課程と方法」の評価と改善

教育臨床・富田英司

授業情報

授業名：教育の課程と方法
開講時期：令和元年前学期
時間割番号：120133
対象学生：初等・特支
担当：富田英司
受講者数：133名（旧課程2名）
DP 対応調査回答者数：110

授業概要

教育課程は教育の目的に応じて諸活動を配置する計画のことであり、教育方法は学習内容を教える方法に関するものである。この授業では理論と関連づけながら具体的な教え方と実際の方法を学ぶ。今回の報告では、昨年度に引き続き、この授業の評価と改善についてまとめた。

特にこの授業で育成を狙ったディプロマポリシーの項目としては、「思考・判断・表現」（教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。）を想定した。

DP 対応調査の結果

① 評定値

DP 1-4の項目に沿った授業かどうかに関する受講生の評定は以下の表のとおりであった。なお、評定値の凡例は1：とてもそう思う、2：ある程度そう思う、3：あまりそう思わ

ない、4：授業の目標・内容がこのDPとは無関係である、であった。DP 1 知識・理解については、昨年度評定を1とした受講生の割合が26%（34/132名）であったことから、約16%の伸びであった。DP 2 技能については、昨年度評定を1とした受講生の割合が23%（31/132名）であったことから、約6%の伸びであった。DP 3 思考・判断・表現については、昨年度評定を1とした受講生の割合が25%（33/132名）であったことから、約7%の上昇であった。DP 4 態度については、昨年度評定を1とした受講生の割合が32%（42/132名）であったことから、1%の上昇であった。

表 令和元年度における DP 対応調査の結果

評定	DP1： 知識理解	DP2： 技能	DP3： 思考判 断表現	DP4： 興味関 心意欲
1	46 (42%)	32 (29%)	35 (32%)	36 (33%)
2	60 (55%)	64 (58%)	72 (65%)	65 (59%)
3	4 (4%)	13 (12%)	3 (3%)	8 (7%)
4	0 (0%)	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)

② 時間外学習等の状況

- 時間外学習（課題）：週平均 1.5 時間（前年度 1.2 時間）
- 時間外学習（課題外）：週平均 0.8 時間（前年度 0.3 時間）
- 自主的に読んだ文献数：平均 0.3（前年度

0.4)

- 授業をきっかけとした活動:平均 0.1(前年度 0.1)

③ 自由記述

「この授業で扱ってほしいと思った内容がもしあれば教えてください。来年度の授業づくりの参考にしたいと思います。」という質問をしたところ、以下の回答を得た(全回答)。

- カリキュラムについてももう少し詳しく知りたい
- 単元計画
- グループでなく個人で逆向き設計の指導案を作ってみたら良かったと思います。
- 逆向き設計について
- 教育実習班での学習指導案作成
- 実習班でのグループ活動
- グループでの活動をもう少し増やす
- さまざまな教育の実践例などを見てみたいと思いました。
- ジョージはとても分かりやすくていいと思った、他のアニメも取り扱っても面白いかもしれない。例 NARUTO など。
- プログラミング教育の実践例についてももう少し詳しく知りたかったです。
- 私自身今までプログラミング教育に関わる機会が少なかったので、この授業で実際にプログラミングの方法を知ることができてためになった。
- 小学生にもできるプログラミングソフトの操作をもう少し深く体験する時間がほしかった。今期の授業では、ネットワークやスマートフォンの機種などの関係で上手く操作できない人がいた。グループに一つ iPad を配布して通信環境を整えるなどした方がよいと思う。

- 問題解決学習の授業実践例のビデオがあればみたい

昨年度は、小テストをムードル等で実施した際の不具合に対する不満(小テストは紙にしてください)、グループワークへの不満(個人で作成したい、グループワークと講義が分離している)に関する意見が複数見られた。グループではなく個人で指導案を作りたいという意見については、今年度も見られた。また、ネットワークへの接続がうまくいかないことへも言及がなされた。それら以外については、前回見られた不満足な点への言及はほとんどなかった。今年度の実践によって、新しくプログラミング教育を具体的に知りたい、問題解決学習の実践事例を見たい、教育実習班での学習指導案作成を進めたいなど、前向きな提案が散見された。

授業改善について

D P 対応調査の昨年度の結果を踏まえて、今年度は、授業やカリキュラムのデザインを理論と技能に基づいた思考と判断の過程であることを重視したものにした。その結果、昨年度の比較して、DP 1 知識・理解、DP 2 技能、DP 3 思考・判断・表現における 1 の評定(「てもそう思う」)の回答頻度が多くなった。これらの上昇は授業者としての意図に沿ったものであるが、DP 3 思考・判断・表現を最も重視した授業にしたいという授業者のねらいについては未だ実現していない。令和 2 年度においては、その点を実現すべく、受講生が参加することのできる問題解決の要素をより多く取り入れていきたいと考えている。